

河川関係用語集

河川 一般	1
<small>りゅういき</small> 流域	1
<small>ほんせん しせん ほんせん</small> 本川・支川・派川	1
<small>ほうすいろ ぶんすいろ</small> 放水路（分水路）	1
<small>しょうすいろ</small> 捷水路	1
<small>かせん かんりじょう くべつ いっきゅうかせん にきゅうかせん じゅんようかせん</small> 河川の管理上の区別（一級河川、二級河川、準用河川）	1
<small>かせんほう</small> 河川法	3
<small>かせんせいびきほんほうしん かせんせいびけいかく</small> 河川整備基本方針・河川整備計画	3
河川構造物	4
<small>かせんくいき かせんほぜんくいき</small> 河川区域・河川保全区域	4
<small>うがん さがん</small> 右岸・左岸	4
<small>かわおもて かわうら</small> 川表・川裏	4
<small>ていないち ていがいち</small> 堤内地・堤外地	4
<small>ていぼう</small> 堤防	5
<small>わじゅうてい</small> 輪中堤	5
<small>えつりゅうてい</small> 越流堤	5
<small>かすみてい</small> 霞堤	5
<small>に せんてい</small> 二線堤	6
<small>よゆうだか</small> 余裕高	6
<small>ほりこみ かどう</small> 掘込河道	6
<small>のりめん</small> 法面	6

のりかた のりしめ 法肩・法尻	6
のりこうばい 法勾配	6
こだん 小段	7
こうすいじき ていすいろ 高水敷・低水路	7
ふくだんめん たんだんめん 複断面・単断面	7
ごがん 護岸	8
ねがためこう 根固工	8
とこと とこがた 床止め・床固め	8
すいせい 水制	8
ひちん ひかん すいちん 樋門、樋管、水門	8
せき 堰	8
そくたい 側帯	9
かせんかんりようつうろ 河川管理用通路	9
高水計画	10
すいり りゅうりょう 水位・流量	10
ハイドログラフ	10
けいかく きほ 計画規模	10
ちようかこうすい 超過洪水	10
こうらう かんけい ようご 降雨に関係する用語	10
ハイエトグラフ	11
けいかく きじゆんてん 計画基準点	11
きほ んだかみすりゅうりょう けいかくたかみすりゅうりょう 基本高水流量・計画高水流量	11
けいかくこうすいり はいうおーたーれべる 計画高水位/H W L	11
りゅうりょうはいぶんず 流量配分図	11
ひりゅうりょう 比流量	12

じょうじじい じすいい 常時維持水位	12
こうすいちょうせつ 洪水調節	12
その他の治水方策	13
はいすいきじょう 排水機場	13
ゆうすいち ちょうせつち ちょうせいち 遊水地、調節池、調整地	13
うすいちよりゅうせつ うすいしんとうせつ 雨水貯留施設・雨水浸透施設	13
た 田んぼダム	13
低水計画	14
りゅうきょう 流況	14
かつすい 濁水	14
きじゅんかつすいりゅうりょう 基準濁水流 量	14
きじゅんかつすいねん 基準濁水年	14
い じりゅうりょう 維持流 量	15
せいじょうりゅうりょう 正常流 量	15
きょかすいりけん かんこうすいりけん 許可水利権・慣行水利権	15
レッドデータブック	16
かせんみすべ こくせいちょうさ 河川水辺の国勢調査	16
たしぜんかわ 多自然川づくり	16
かはんりん 河畔林	16
せ ぶち 瀬・淵	17
エコトーン	17
かんきょうきじゅん 環境基準	17
かせんじょうか 河川浄化	18
その他	19
がいすいはんらん ないすいはんらん 外水氾濫・内水氾濫	19

しんすいしん
浸水深 _____ 19

ちたい
ゼロメートル地帯 _____ 19

とうきょうわんへいきんかいめん
東京湾平均海面 (T.P: Tokyo Peil) _____ 19

河川 一般

流域

降った雨や溶けた雪は地表を伝って河川に流れ込みます。雨や雪が流れこむ範囲を流域といいます。または集水域しゅうすいいきと呼ばれることもあります。

本川・支川・派川

○本川

流量、長さ、流域の大きさなどが、もっとも重要と考えられる、あるいは最長の河川です。

○支川

本川に合流する河川です。また、本川の右岸側に合流する支川を「右支川」、左岸側に合流する支川を「左支川」と呼びます。さらに、本川に直接合流する支川を「一次支川」、一次支川に合流する支川を「二次支川」と、次数を増やして区別する場合があります。

○派川

本川から分かれて流れる河川です。

放水路（分水路）

河川の途中から新しく人工的に開削し、直接海または他の河川に放流する水路のことで、「分水路」と呼ばれることもあります。河川の流路延長を短くして、洪水をできるだけ早く放流する場合、または洪水量が増大して河道の拡張だけでその洪水を負担することが困難な場合、あるいは河口が土砂の堆積などによって閉塞されているような場合に設けられます。

捷水路

河川の湾曲部を矯正して、洪水を安全に流下させるために開削した水路です。

河川の管理上の区別（一級河川、二級河川、準用河川）

○河川管理者

河川は公共に利用されるものであって、その管理は、洪水や高潮などによる災害の発生を防止し、公共の安全を保持するよう適正に行われなければなりません。この管理について権限をもち、その義務を負う者が河川管理者です。具体的には、一級河川については、国土交通大臣（河川法第9条第1項）、二級河川については都道府県知事（同法第10条）、準用河川については市町村長（同法第100条第1項による河川法の規定の準用）と河川法に定められています。

すいけい
○水系

河川は上流部から小さな河川が合流し、この合流を繰り返しながら徐々に海に向かい、大きな河川と
なっています。これら同じ流域内にある河川とこれらに関連する湖沼を総称して水系すいけいといいます。

一級水系は国土保全上または国民経済上特に重要な水系は、国土交通大臣が直接管理します。全国で
一級水系に指定された水系は、109水系です。(平成24年4月30日現在)

二級水系は一級水系以外の水系は、二級水系として都道府県知事が管理します。全国で二級水系に指
定された水系は、2,714水系です。(平成24年4月30日現在)

単独水系は一級水系、二級水系以外の水系です。

かんりくかん
○管理区間

大臣管理区間(指定区間外区間)は一級水系については国土交通大臣が直接管理しますが、その中の
主要な河川を2つに区分し、特に重要な幹川を国土交通大臣管理区間と呼びます。(次の指定区間と対
比して「指定区間外区間」とも呼びます)。

指定区間は大臣管理区間以外の河川は、一定規模以上の水利権などを除いて、通常の管理を都道府県
知事に委任しています。この区間は、国土交通大臣が指定することによって決まるので、指定区間と呼
びます。

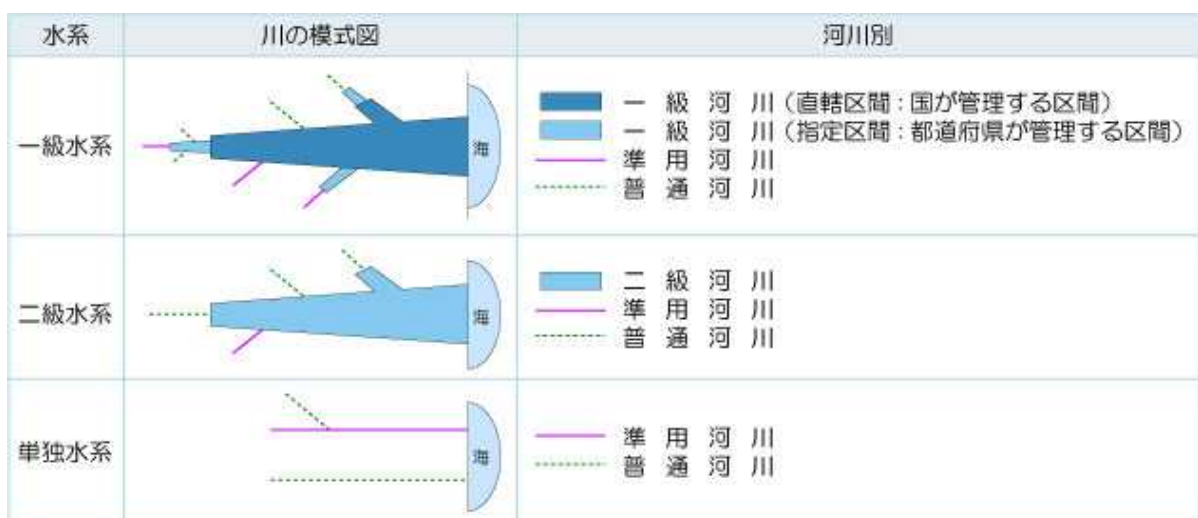
かせん
○河川

一級河川は一級水系に係わる河川で、国土交通大臣が指定した河川です。全国で14,048河川が一級
河川に指定されています。(平成24年4月30日現在)

二級河川は二級水系に係わる河川で、都道府県知事が指定した河川です。全国で7,081河川が二級河
川に指定されています。(平成24年4月30日現在) 因みに、一級水系の中に二級河川はあり得ません。

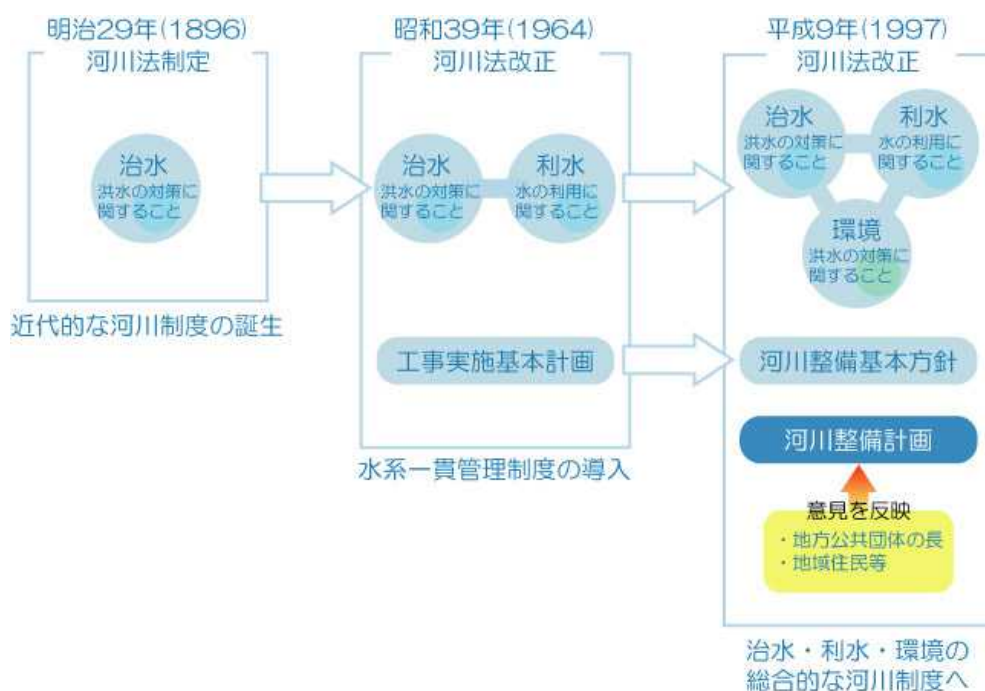
準用河川は河川法の規定の一部を準用し、市町村長が管理する河川です。一級水系、二級水系、単独
水系にかかわらず設定されます。

普通河川は一級河川、二級河川、準用河川以外の小河川を普通河川と呼びます。実際の管理は、市町
村などが行っています。



かせんほう 河川法

日本では明治 29 年（1896）に河川法がはじめて制定されました。その後、幾度か改正され、現在の河川法に至っています。特に、昭和 39 年に大きく改正され治水と利水に関する制度の整備が図られました。その後、川は人々の憩いの空間であり、多種多様な生物の生息・生育環境として地域の風土や文化を形成する重要な要素としての役割が認められ、平成 9 年（1997）の改正によって目的に「河川環境の整備と保全」が加えられました。また、地域の以降を反映して計画する河川整備計画の仕組みも導入されました。

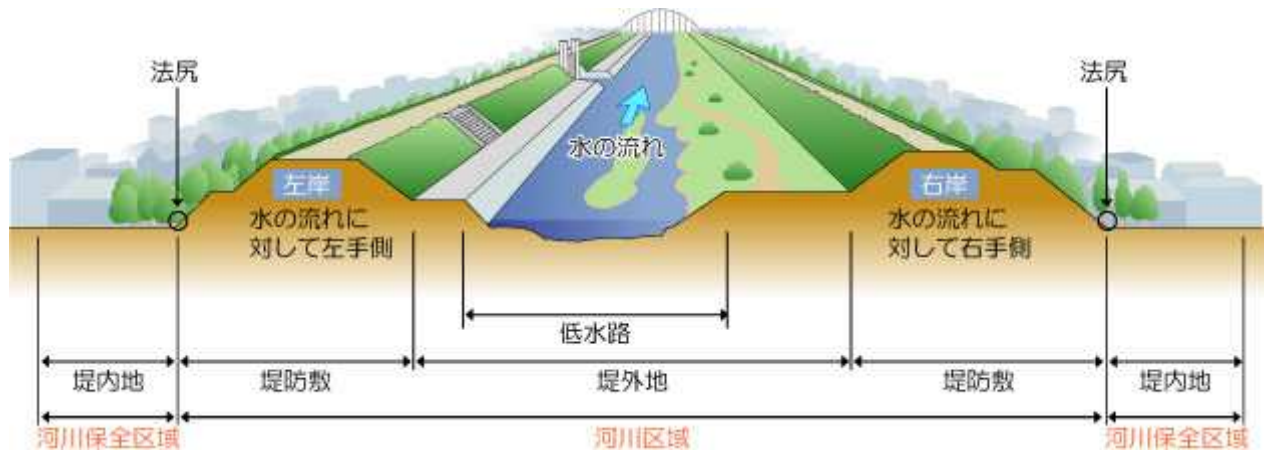


かせんせいびきほんほうしん かせんせいびけいかく 河川整備基本方針・河川整備計画

河川整備基本方針（長期的な方針）は計画高水流量等の基本的な事項について河川管理者が河川審議会の意見を聴いて定められます。

河川整備計画とは今後 20～30 年間に実施する具体的な整備の内容をまとめた計画です。ダムや堤防等の具体的な整備の計画について河川管理者は地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映させて定められます。

河川構造物



かせんくいき かせんほぜんくいき 河川区域・河川保全区域

河川区域は洪水などの災害発生を防止するために必要な区域であり、河川法が適用される区域を指します。一般には堤防の川裏の法尻から対岸の堤防の川裏の法尻までの区間を河川区域といいます。

河川保全区域は堤防や河川管理施設を保全するための区域です。

うがん さがん 右岸・左岸

川の流れる方向に対して右側の岸が右岸、左側の岸が左岸と呼ばれます。

かわおもて かわうら 川表・川裏

堤防を境にして水が流れている方を川表、住居や農地などがある方を川裏といいます。

ていないち ていがいち 堤内地・堤外地

堤防によって洪水から守られている土地（市街地や農地等）を堤内地といいます。堤外地は堤防より川側の地域を指します。



ていぼう 堤防

堤防とは、洪水を氾濫させないために築造した盛土のことです。堤防のほとんどは土砂を盛って築造しますが、特別な場合の特殊堤があります。また堤防には、築造位置や形状、機能により本堤、副堤、霞堤、輪中堤、背割堤、羽衣堤、越流堤、導流堤、締切堤、逆流堤などの色々な種類があります。

わじゅうてい 輪中堤

ある特定の区域を洪水の氾濫から守るために、その周囲を囲むようにつくられた堤防です。輪中堤は江戸時代につくられたものが多く、中部地方の木曾三川（木曾川、長良川、揖斐川）の下流の濃尾平野の輪中が有名です。

えつりゅうてい 越流堤

洪水調節の目的で、堤防の一部を低くした堤防です。越流堤の高さを超える洪水では、越流堤から洪水の一部分を調節池などに流し込む構造になっています。ですから、越流堤は流れの作用で壊れないよう表面をコンクリートなどで覆い、頑丈な構造となっています。

かすみてい 霞堤

霞堤は、堤防のある区間に開口部を設け、その下流側の堤防を堤内地側に延長させて、開口部の上流

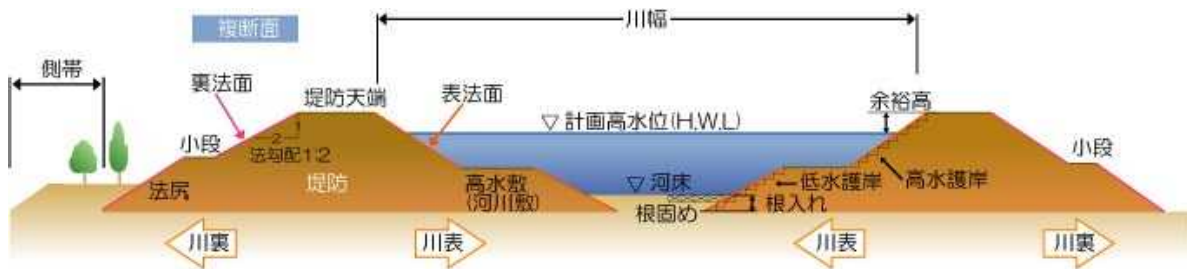
の堤防と二重になるようにした不連続な堤防です。戦国時代から用いられており、霞堤の区間は堤防が折れ重なり、霞がたなびくように見えるようすから、こう呼ばれています。霞堤には2つの効果があります。1つは、平常時に堤内地からの排水が簡単にできます。もう一つは、上流で堤内地に氾濫した水を、霞堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害の拡大を防ぎます。

にせんてい 二線堤

本堤背後の堤内地に築造される堤防のことをいい、^{ひかえてい}控え堤、二番堤ともいわれます。万一、本堤が破堤した場合に、洪水氾濫の拡大を防ぎ被害を最小限にとどめる役割を果たします。

よゆうたか 余裕高

余裕高とは、堤防の高さと計画高水位の間にとっている余裕の高さのことです。この余裕は、洪水時の巡視や水防活動中の安全確保、風浪・うねり等の計画高水位には考慮されていない水位上昇に対して堤防の安全を確保するためのものです。



ほりこみかどう 掘込河道

堤内地盤高が計画高水位よりも高い場合をいいます。

のりめん 法面

盛土や切土によって形成された土の斜面を法面といいます。

のりかた のりしろ 法肩・法尻

法面の最上部の端を法肩、最下部の端を法尻といいます。

のりこうばい 法勾配

護岸や堤防などの斜面の部分の勾配（傾斜、傾き）です。直角三角形の鉛直高さを1としたときの水

平距離が n の場合、 $1 : n$ と表示します。たとえば $1 : 2$ は 2 割勾配、 $1 : 0.5$ は 5 分勾配というように特殊な言い方をします。

小段

堤防が高くなると斜面の上下方向の長さが長くなるので、のり面の安定性を保つために、小段と呼ばれる水平な部分を設けることがあります。小段は、維持補修や水防活動といった作業を容易にする役割ももっています。

高水敷・低水路

高水敷は、複断面の形をした河川で、常に水が流れる低水路より一段高い部分の敷地です。平常時にはグラウンドや公園など様々な形で利用されていますが、大きな洪水の時には水に浸かってしまいます。

複断面・単断面

単断面は高水敷がなく、低水時も高水時も水面幅に大きな差がない構造です。一方、複断面には高水敷があり、高水時の水面幅が低水時の水面幅に比べて大きく広がる特徴を持っています。これは、高水敷の上では水面幅が急激に広がることによって、流下する水の水深が浅くなり流速（流れる速度）も遅くなります。ですから、洪水時に堤防を守るために好都合だといえます。



こがん 護岸

川を流れる水の作用（浸食作用など）から河岸や堤防を守るために、それらの表法面（川を流れる水があたる堤防などの斜面）に設けられる施設で、コンクリートなどで覆うような構造のものです。

ねがためこう 根固工

洪水時に河床洗掘（川を流れる水により川底や堤防が削られること）が著しい場所において、護岸基礎工前面の河床の洗掘を防止するために設けられる施設です。

とことど とこがた 床止め・床固め

河床の洗掘を防いで河川の勾配（上流から下流に向かっての川底の勾配）を安定させるために、河川を横断して設けられる施設です。

床固めということもありますが、機能は同じです。床止めに落差がある場合、「らくさこう落差工」と呼び、落差がないかあるいは極めて小さい場合、「おびこう帯工」と呼びます。

すいせい 水制

川を流れる水の作用（浸食作用など）から河岸や堤防を守るために、水の流れる方向を変えたり、水の勢いを弱くしたりすることを目的として設けられる施設です。

形状としては、水の流れに直角に近いものから、平行に近いものまでいろいろあり、また構造としても、水が透過するように作られたものから、水を透過させないように作られたものまであります。もとめられる機能に応じていろいろな形状・構造のものがあります。

ひもん ひかん すいもん 樋門、樋管、水門

堤内地の雨水や水田の水などが川や水路を流れ、より大きな川に合流する場合、合流する川の水位が洪水などで高くなった時に、その水が堤内地側に逆流しないように設ける施設です。

このような施設のなかで、堤防の中にコンクリートの水路を通し、そこにゲート設置する場合、樋門または樋管と呼びます。樋門と樋管の明確な区別はなく、機能は同じです。また堤防を分断してゲートを設置する場合、その施設を水門と呼びます。水門を堰と混同される場合がありますが、水門はゲートを閉めた時に堤防の役割を果たします。

せき 堰

農業用水・工業用水・水道用水などの水を川からとるために、河川を横断して水位を制御する施設です。とうしゅこう頭首工やしゅすいせき取水堰とも呼ばれます。堰を水門と混同される場合がありますが、ゲートを閉めたときに堰は堤防の役割を果たしません。

側帯

堤防を安定させるため、または非常用の土砂などを備蓄したり、環境を保全したりするために、堤防の裏側（堤内地側）に土砂を積み上げた部分のことです。

河川管理用通路

河川管理用通路は、河川巡視、水防活動や災害復旧工事のための通行のために設けられた、堤防の天端上の通路です。平常時には、一般車両通行禁止として散策道やサイクリング道路、兼用道路（道路法上の道路）、高水敷へのグラウンド利用のアクセス路等としても利用されています。

高水計画

水位・流量

水位は、河川などの水面の位置を観測所ごとに設定した基準面からの高さで表した値です（したがって、一般に用いられる標高とは異なります）。

流量は、単位時間内に流れに直角方向の断面を通過する流体の体積を表す値で、単位は〔m³/s〕です。

ハイドログラフ

ハイドログラフとは、任意の基準点における時刻（時間軸）と水位または流量との関係をグラフ化したものであり、水位ハイドログラフ及び流量ハイドログラフがある。水位や流量の時間的変化が視覚的に確認でき、洪水時の水位、流量の変動状況を把握することができます。

計画規模

洪水を防ぐための計画を作成するとき、被害を発生させずに安全に流すことのできる洪水の大きさいわゆる対策の目標となる洪水の規模のことを計画規模といいます。一般的にその洪水が発生する確率（確率年）で表現します。

超過洪水

洪水を防ぐための計画を作成した時に対策の目標とした洪水（計画規模）を超える恐れのある洪水のことを超過洪水といいます。

超過洪水が発生すると川の水位が H.W.L より高くなり、堤防からあふれ、堤防が決壊するなどの被害の可能性があります。洪水は、台風や梅雨によってもたらされる自然災害です。従って、時に人間の予想を超える被害をもたらすことがあります。このような、予想を越える洪水の発生にも備えることを超過洪水対策といいます。

降雨に関する用語

○流域平均雨量

複数の観測所雨量から得られたデータを対象流域で平均化した雨量のことです。流域平均雨量を算定するための代表的な手法として、ティーセン法、代表係数法、算術平均法、等雨量線法などがあります。

○雨量確率^{うりょうかくりつ}

洪水時の発生頻度の表現方法の一つで、「何年に一度の割合で起こる洪水」というように使います。正確には1年のうちに発生する確率のことを指しますが、便宜的に「何年に一度」という表現で使われます。

○1時間雨量と60分雨量

1時間雨量とは正時(毎時00分)を始点として1時間以内に降った雨の量を指します。それに対し、60分雨量は隣り合った10分雨量(6観測値)の合計値であり、1時間雨量とは起算するタイミングが異なります。

○洪水の総雨量

洪水の総雨量は雨が降り始めてから止むまでに降った累計です。

○時間最大雨量

降雨が継続している期間中、最も大きかった時間雨量が時間最大雨量と呼ばれます。

ハイトグラフ

ハイトグラフとは、降雨と時間の関係をグラフにより示したものである。一般に、横軸に時刻または時間を、縦軸に単位時間ごとの雨量または強度をとり、棒グラフで図示する。

計画基準点^{けいかくきじゅんてん}

洪水を防ぐための計画を作成するときに、代表となる地点です。この地点で基本高水流量や計画高水流量を定め、その河川の改修計画が作成されます。大きな河川では、複数の基準地点が設定されています。

基本高水流量・計画高水流量^{きほんたかみずりゅうりょう けいかくたかみずりゅうりょう}

基本高水とは、洪水を防ぐための計画で、対策の目標とする洪水のハイドログラフ(流量が時間的に変化する様子を表したグラフ)のことです。基本高水流量は、基本高水の最大流量から決めた流量です。基本高水流量は流域に降った雨がそのまま川に流れ出た場合の流量のことであるのに対し、基本高水流量からダムや調節池などの洪水調節の量を差し引いて、川を流れる流量のことを計画高水流量といいます。

計画高水位^{けいかくこうすい} / H.W.L. ^{はいわうおーたーれべる}

計画高水位(H.W.L)は、計画高水流量が河川改修後の河道断面を流下するときの水位です。この水位は、堤防や護岸などの設計の基本となる水位です。

流量配分図^{りゅうりょうはいぶんず}

各地点の河道、洪水調節ダム等の基本高水のピーク流量、計画高水流量を示した模式図です。

ひりゅうりょう 比流量

比流量とは流域の特性を示すための指標の一つであり、異なった大きさの河川流域の流量を比較する場合に用いられます。流量を流域面積で割った値で単位は $[m^3/s/km^2]$ または $[m^3/s/100km^2]$ です。

じょうじいしすい 常時維持水位

水を利用（揚水）するために、常時維持しようとする最高の水位をいいます。

こうすいちようせつ 洪水調節

洪水の一部分をダムや遊水地、調節池に一時的に貯め、川に流れ出す流量を少なくすることを洪水調節といいます。

洪水を防ぐための対策として、まず、川を広げたり、堤防を高くしたりすることが考えられます。しかし、川沿いに家屋やビルが密集した川では、川沿いの家から引越しをしてもらい、堤防の工事をしていくことになるため、多くの費用と時間がかかることが予想されます。

このような場合は、上流にダムや遊水地、調節池などを設けて、川に流れ出す流量を小さくする対策の方が、費用と効果の面では有効な手段になります。

その他の治水方策

排水機場

樋管・樋門・水門の扉が閉じられたとき、内水または河川水を自然に排水できなくなります。排水機場では、電気やディーゼルエンジンなどの動力を使って内水や河川水をポンプアップし川へ排水し、内水被害を防止します。

遊水地、調節池、調整地

洪水の最大流量を減少させるため、洪水を一時的に貯めて調節し、洪水が終わった後にゆっくり流す施設を遊水地または調節池と呼びます。

○遊水地

川に隣接した低地で、洪水を流入させ湛水するような土地を遊水地といいます。

○調節池

機能は遊水地と同じですが、遊水地の池底より掘り下げたものを調節池といいます。

○調整地

住宅や工業団地など開発行為に伴い雨水、排水をストックするために設けられます。

雨水貯留施設・雨水浸透施設

雨水を一時的に貯めたり地下に浸透させたりして、河川への雨水流出量を抑制する施設を指します。

○雨水貯留施設には、公園や駐車場などの地表面や建物の地下に貯留するタイプがあります。

○雨水浸透施設には、浸透ますや浸透トレンチ、透水性の舗装などの種類があります。

田んぼダム

田んぼダムとは、田んぼがもともと持っている水を貯める機能を利用し、大雨が降ったときに田んぼに一時的に水を貯めることで、洪水被害を軽減する取組です。

新潟県では平成 14 年度に旧神林村（村上市）で全国に先駆けて取組が始まりました。

低水計画

りゅうきょう 流況

流況は1年を通じた川の流量の特徴のことをいい、豊水、平水、低水、渇水流量を指標にします。

流況を見ると、その川の1年間の流量の変化の様子や水の豊かさが分かります。

環境基準の達成目標等は、低水流量や渇水流量を目安にして計画が立てられています。

流況をあらわす指標（豊平低渇）

豊水流量：1年を通じで95日はこれを下回らない流量

平水流量：1年を通じで185日はこれを下回らない流量

低水流量：1年を通じで275日はこれを下回らない流量

渇水流量：1年を通じで355日はこれを下回らない流量

川で観測した365日分の流量データを、大きい順に並べて、95番目の流量を豊水流量、同185番目を平水流量、同275番目を低水流量、同355番目を渇水流量とといいます。

渇水、低水、平水といった指標は、もともと水力発電分野に発したもので、当初は停電を避けるために渇水流量を発電使用水量にしていました。しかし技術の発達とともに使用水量も除々に増え、豊水の用語が使われるようになった経緯があります。

かつすい 渇水

長い間、雨が降らずに川やダムの水が減少することを言います。

雨の少ない地域や川から多くの水を取水している地域では、渇水が起りやすくなります。

渇水が長引くと、水田に水が引けなくなったり、私たちの飲み水も足りなくなったりすることがあります。このような渇水を異常渇水と言います。

きじゅんかつすいりゅうりょう 基準渇水流量

基準渇水流量とは、新たに水利権を許可するに当たっての基準とされる流量で、通常、10年に1回程度の渇水年における渇水流量を基準渇水流量とし、地点毎に、許可毎に設定されます。新たに水利権を許可するに当たっては、原則として、取水予定量が、基準渇水流量から河川の維持流量と他の水利使用者の取水量の双方を満足する水量（正常流量）を控除した水量の範囲内であることが必要となります。

きじゅんかつすいねん 基準渇水年

基準渇水流量を設定する場合においては、10年に1回程度の渇水流量が発生する年を、このような許可を行うに当たって基準年とといいます。

維持流量

維持流量とは、舟運、漁業、景観、塩害の防止、河口閉鎖の防止、河川管理施設の保護、地下水位の維持、動植物の保存、流水の清潔の保持等を総合的に考慮し、渇水時において維持すべきであるとして定められた流量をいいます。

正常流量

川には、年間を通して様々な動物や植物が棲み、また私たちは川や川の水を様々な活動に利用します。このような生物の営みや人間の活動を維持していくために必要な川の流量を正常流量といいます。

正常流量は、川の機能を維持していくために最小限必要な流量（維持流量）と、川の水の利用を、同時に満たす流量で決められます。

維持流量は下記の 9 項目により計算されます。

- (1) 川に棲む動植物の生育・生息に必要な流量
- (2) 漁業の対象になっている魚に必要な流量
- (3) 川の景観を守るために必要な流量
- (4) 水質が悪化しないために必要な流量
- (5) 舟運（船が運行するため）に必要な流量
- (6) 河口部で塩害の防止に必要な流量
- (7) 河口部で土砂が堆積することによる河口閉塞の防止に必要な流量
- (8) 河川管理施設の保護に必要な流量
- (9) 河川周辺の地下水位の維持に必要な流量

許可水利権・慣行水利権

利水とは、生活、農業、工業などのために、川の水を利用することです。

水利権とは、この川の水を利用する権利のことをいいます。

現在、川の水を利用するためには、河川管理者の許可が必要です。河川管理者の許可を受けた水利権を許可水利権といいます。一方、農業用水など明治時代以前から認められていた水利権を慣行水利権といいます。

慣行水利権とは、水利用の長期継続という事実（慣行）をもとに社会的に承認された権利、かつ、旧河川法（明治 29 年公布）施行以前からの取水実態があつて、河川法による許可を受けたものとみなされているものです。権利内容の変更がなければ水利権更新等の手続は不要ですが、内容を変更するには河川管理者の許可を得る必要があります。

河川環境、水質

レッドデータブック

環境省は野生生物の保全のためには、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることからレッドリスト（日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）を作成・公表するとともに、これを基にしたレッドデータブック（日本の絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもの）を刊行しています。

レッドリスト及びレッドデータブックは専門家による科学的・客観的な評価をとりまとめた基礎的資料であり、捕獲規制等の直接的な法的効果を伴うものではありませんが、社会への警鐘として広く社会に情報を提供することにより、様々な場面で多様な活用が図られるものです。

河川水辺の国勢調査

河川水辺の国勢調査は、河川環境の整備と保全を適切に推進するため、定期的、継続的、統一的な河川に関する基礎情報の収集整備を図ることを目的として、平成2年度より実施されています。

河川水辺の国勢調査は、河川では、「魚類調査」「底生動物調査」「植物調査」「鳥類調査」「両生類・爬虫類・哺乳類調査」「陸上昆虫類等調査」の6項目の生物調査と、植生図と瀬・淵や水際部の状況等、河川構造物を調査する「河川環境基図作成調査」、河川空間の利用者数などを調査する「河川空間利用実態調査」の計8項目の調査が行われています。ダム湖では、生物6項目の生物に加えて「動植物プランクトン調査」を実施し、「ダム湖環境基図作成調査」「ダム湖利用実態調査」と合わせて計9項目の調査が行われています。

多自然川づくり

多自然川づくりとは、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことをいいます。

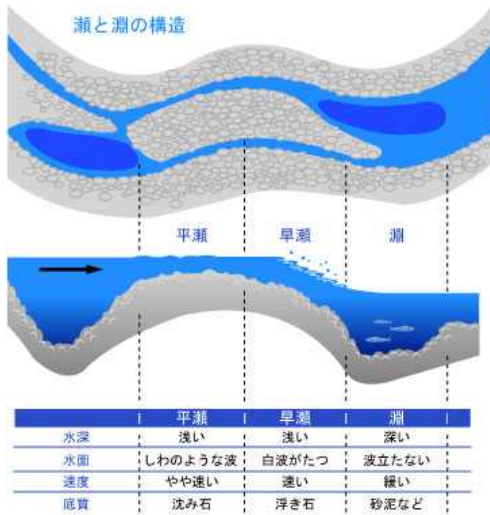
河畔林

洪水などの影響を受ける不安定な立地の河原に生育している水辺林を、河畔林または溪畔林けいはんりんといいます。河畔林や溪畔林から落ちた葉や小枝は、川の中の小さい生きもの餌になり、落ちた昆虫は魚の餌になります。

瀬・淵

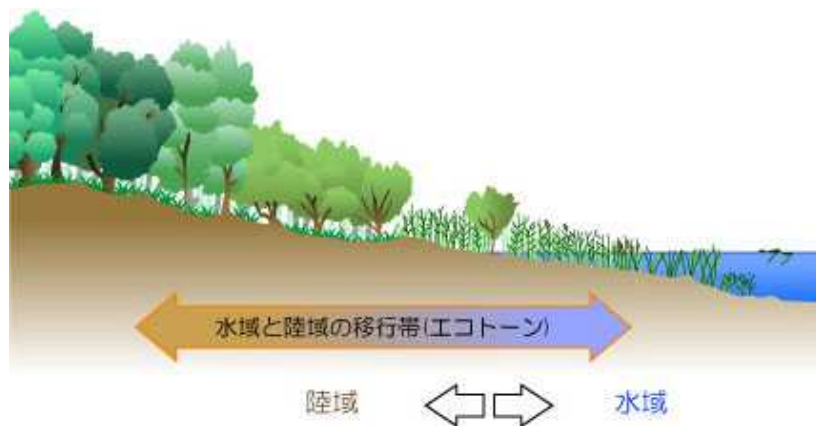
川をよく見ると、流れが速く水深の浅い場所と流れが遅く水深の深い場所があります。

この流れが速く浅い場所を瀬、その前後で流れが緩やかで深いところを淵と呼びます。



エコトーン

エコトーンは移行帯または推移帯とも呼ばれ、陸域と水域の境界になる水際のことをいいます。エコトーンには水の深さや土の水分条件が少しずつ変化するため、様々な植物や生物が生息しています。



環境基準

環境基本法によって、大気や水質、土壌、騒音について望ましい基準を定めることになっています。

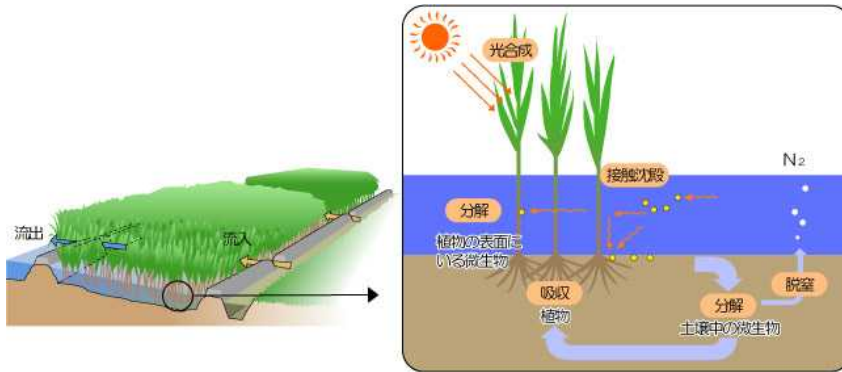
水質に係る環境基準には、生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目）や、人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）があります。

川では水の利用目的などに応じて、AA から E 類型（るいけい）を定めています。AA 類型が最もきれいな水で、E 類型が最もきたない水になります。

河川浄化

河川浄化施設は、汚れた川の水をきれいにするためにつくった施設です。汚れた水を取り込み、微生物や植物の働きを利用して汚れを分解・沈殿・ろ過して水をきれいにします。

代表的なものに礫間接触酸化や水生植物を利用した植生浄化などがあります。



その他

がいすいはんらん ないすいはんらん 外水氾濫・内水氾濫

外水氾濫は河川の堤防から水が溢れ又は破堤して家屋や田畑が浸水する氾濫を指します。外水氾濫が発生すると広い範囲が浸水して、大規模な被害が発生する恐れがあります。

内水氾濫は堤防から水が溢れるのではなく、川が増水して水位が上昇するため、堤内地に降った雨が自然に川へ排水できなくなるため、堤内地の水路があふれ出したり、下水道のマンホールの蓋から下水が噴き出したりする現象です。

しんすいしん 浸水深

洪水や内水氾濫によって、市街地や家屋、田畑が水で覆われることを浸水（洪水により、道路や農地が水で覆われることを冠水ということもあります）といい、その深さを浸水深といいます。

一般の家屋では、浸水深が 50cm 未満の場合は床下浸水、50cm 以上になると床上浸水する恐れがあります。

ろたい ゼロメートル地帯

土地の高さ（標高）が満潮時の平均海水面（朔望平均満潮位）よりも低い土地を表します。

とうきょうわんへいきんかいめん 東京湾平均海面（T.P：Tokyo Peil）

東京湾平均海面（Tokyo Peil：T.P.）とは、全国の標高の基準となる海水面の高さです。「東京湾中等潮位」とも呼ばれます。

※本資料については、以下のホームページ等の掲載用語集から引用（一部修正加筆）し、作成しています。

- ・国土交通省水管理・国土保全局 WebSite 「河川に関する用語」
https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/kasen/jiten/yougo/index.html
- ・国土交通省国土技術政策総合研究所 WebSite 「河川用語集～川のことば」
<http://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/yougo/>